＜研究成果の紹介＞

卸売市場によるシクラメン評価の違い

農業研究部経営・植物工学グループ

1．成果の内容

鉢花は切り花に比べて評価が難しく、市場における品質評価基準や規格が確立されていません。このため、シクラメンの価格形成や各地の品評会でのランク付けの基礎は、専門家の主観的評価に依存しています。しかし、生産者や産地が出荷先卸売市場の品質評価を具体的に把握し、的確な対応を行うことは極めて重要です。

そこで市場の要求に応じた品質特性を持つシクラメンの生産出荷を誘導するため、ＡＨＰ（階層化意思決定法）を用いて卸売市場の経験的（主観）評価とその特徴を解析しました。

中京・関西市場を比較すると、中京市場では「外観品質」が0.519と高いのですが、関西市場では「日持ち性」が0.400と高く、市場間で明らかな差異が認められます。この結果は、シクラメン生産者から聞き取った両卸売市場に対する感覚や評判と一致しており、妥当性のある重要度と考えられます。

外観品質を構成する評価基準を見ると、中京市場では「花」の重要度が0.205と高いのですが、関西市場の「花」の重要度は0.074と低く、「株全体」の重要度は0.142で当該市場の「花」の重要度より高くなっています。これら外観品質の諸要素でも両市場の評価差異が認められ、生産現場で対応すべき重要な課題であることが明らかとなりました。

2．技術の適用効果と適用範囲

市場流通量が多い5号鉢の普通種、Ｆ１等（同様の外観形態を持つ品種を含み、ミニまたは特異な形態等のシクラメンを除く）に限定して分析を行いました。

3．普及・利用上の問題点

生産者や産地は、ターゲットとする卸売市場の品質評価基準や外観的特徴を客観的に把握する努力に止まらず、その品質を備えるシクラメンの生産技術を確立することが極めて重要となります。

（大泉賢吾）

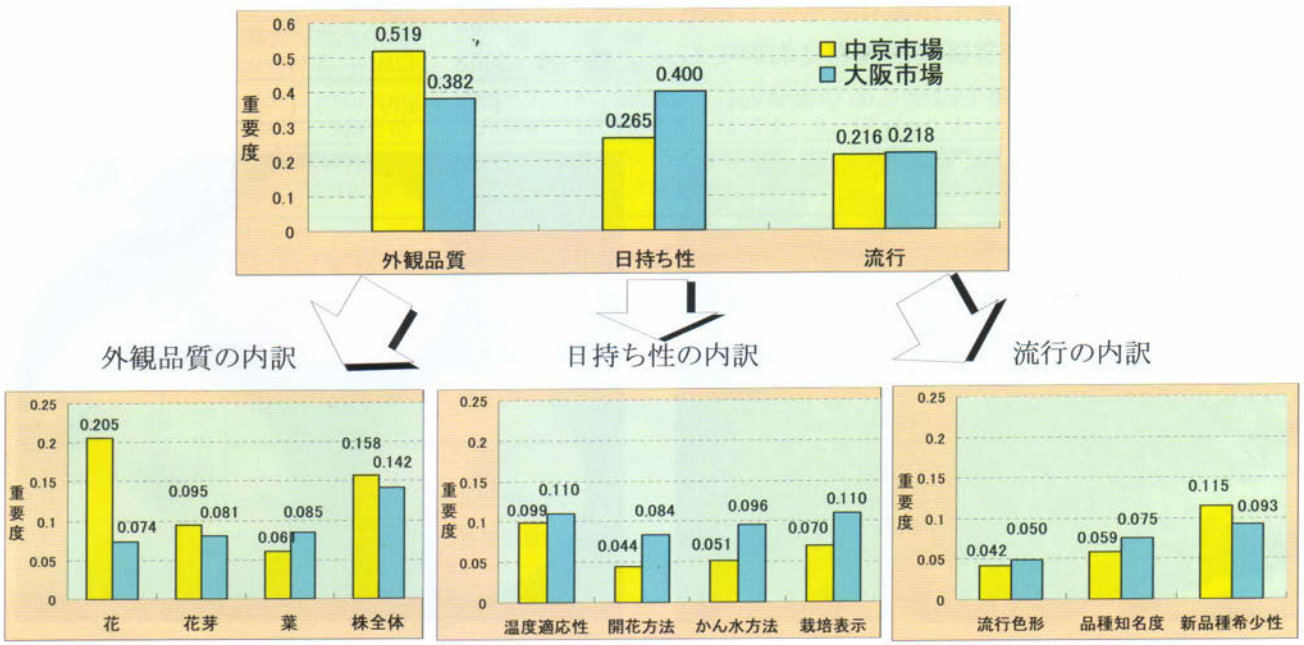

図 花き卸売市場におけるシクラメンの品質評価重要度の違い